

洋服の保管と廃棄に関する意識調査

吉田久仁子^{*1}, 三木 幹子^{*2}

(2020年10月12日 受理)

A Survey of People's Attitudes Toward the Storage and Disposal of Clothes

Kuniko YOSHIDA^{*1} and Motoko MIKI^{*2}

Abstract

This paper reports factor analysis results of a questionnaire survey given to fifty men and women as survey subjects on attitudes towards the storage and disposal of clothes. The following findings are reported in this survey.

Women are more likely to keep clothes they do not wear and prefer to make use of them by recycling instead of throwing them away as waste. In contrast, men do not hesitate to throw away clothes they do not wear any more as waste. Moreover, women are likely to dispose of affordable clothes after one season of wearing them while men tend to wear their clothes longer.

People who care more about design tend to be attached to their clothes and cannot dispose of them. People who love to mix and match their clothes tend to have less interest in clothes and prefer to give them to other people by using flea markets and putting their used clothes in the recycling boxes at shops. On the other hand, people who care more about size tend to dispose their clothes as waste instead of giving them to other people because they are more consciousness of standard sized clothes.

Keywords: Factor Analysis 因子分析, Storage and disposal of clothes 洋服の保管と廃棄

I. はじめに

近年、地球温暖化、気候変動、海洋汚染など環境問題がクローズアップされ、原因となるものへの規制が積極的に行われている。その環境問題の原因のひとつに衣類の大量生産・大量消費・大量廃棄があるが、あまり認知されていない。ファッションの指し示すイメージが華やか

^{*1} 広島女学院大学大学院人間生活学研究科1年

^{*2} 広島女学院大学人間生活学部生活デザイン学科教授

で煌びやかなものであるため、それが環境汚染と結びつかないのが要因である。しかし、環境に有害な産業として無縁のように思えるファッション業界は、実は世界で第2位の汚染産業とみなされているのである¹⁾。

その原因のひとつとして、ファストファッション（注1）という業態に問題があるというのは明白である。「安く早い」流行を取り入れた衣類を提供するには、その素材を生産したり、縫製に携わる人たちの国や生活、人権を侵害しているうえに成り立っていることは、たびたび問題視されてきた（注2）（注3）。そうした犠牲のうえで大量生産された衣服は、先進諸国においてはトレンドの移り変わりにより、余れば大量廃棄されるという負の連鎖につながっている。

ここでは、洋服の保管と廃棄についての消費者の意識を調査しているが、「保管」や「廃棄」の前提には、洋服の「購入」が大きく関わることを忘れてはならない。安くファッションブルな洋服を好む人もいれば、良いもの（生地・価格・デザイン）を長く大切に着る人もいる。消費者の購買行動は、その後の洋服の「保管」や「廃棄」を左右すると予想される。

今日の循環型社会（注4）への取り組みとして重要なことは、有限である資源をいかに効率的に利用するかということと同時に、再生産再利用を行うことによって、持続可能な形で循環させながら利用するということである。そうした点でペットボトルや食品トレーなどの再生利用は一般の人にも取り組みやすいため成功している事例だといえる。しかし、家庭からゴミとして出される衣服は再生利用が進んでいない。それは「デザインや素材が多様化していることに加え、適切な再利用方策が見いだせない」²⁾ ことが、今日に至っても解決できていないからだといえる。

そこで本研究では、人々が家庭で衣服の保管や廃棄に関してどのような意識を持ち、どのような問題を抱えているのかを探るために、性別や性格、洋服への関心度等によって、服の廃棄方法が異なるのかを明らかにすることを目的とし、一般の男女を対象にアンケート調査を行い、データ分析により考察を行った。

II. 調査方法

1. 調査時期

2020年7月

2. 調査対象

被験者は、女性35人、男性15人、計50人である。被験者の内訳を表1に示す。

表1 被験者の内訳

被験者 No.	性別	年齢	職業	被験者 No.	性別	年齢	職業
1	女性	50代	社会人	26	男性	60代	社会人
2	女性	50代	学生, 社会人, 主婦	27	女性	50代	社会人
3	女性	20代前半	学生	28	男性	60代	社会人
4	女性	20代前半	学生	29	女性	40代	社会人
5	女性	20代前半	学生	30	男性	50代	社会人
6	女性	20代前半	学生	31	女性	50代	社会人
7	女性	20代前半	学生	32	男性	20代前半	学生
8	女性	20代前半	学生	33	男性	50代	社会人
9	女性	20代前半	学生	34	男性	50代	社会人
10	男性	50代	社会人	35	女性	40代	社会人
11	女性	20代前半	学生	36	男性	50代	社会人
12	女性	20代前半	社会人	37	男性	50代	社会人
13	女性	20代前半	学生	38	女性	20代前半	学生
14	女性	20代前半	学生	39	女性	20代後半	アルバイト, パート
15	女性	60代	社会人	40	女性	20代前半	アルバイト, パート
16	女性	30代	社会人	41	男性	50代	
17	女性	40代	自営業	42	女性	40代	社会人
18	女性	20代前半	学生	43	女性	40代	社会人
19	女性	20代後半	社会人	44	男性	50代	社会人
20	女性	40代	アルバイト, パート	45	男性	50代	社会人
21	女性	50代	社会人	46	男性	40代	社会人
22	女性	50代	アルバイト, パート	47	女性	60代	社会人
23	女性	20代前半	学生	48	男性	30代	社会人
24	女性	20代前半	学生	49	男性	30代	社会人
25	女性	50代	学生, アルバイ ト, パート, 主婦	50	女性	20代前半	社会人

3. 調査内容

Google フォームによるアンケート調査を実施した。

(1) 意識調査

洋服の保管と廃棄に関する意識項目を25個設定し、そう思う、ややそう思う、どちらでもない、あまり思わない、全く思わない、の5段階で回答してもらった。

評価にはSD法を採用した。アンケートに用いた意識項目を図1に示す。

(2) 実態調査

服の所持、購入時に重視すること、自分の性格に関する実態調査の質問項目を設定し、回答してもらった。性格に関する質問は、各自が自己評価する性格が、服の保管や廃棄などの被服行動に影響を与えているのではないかと考え設定した。アンケート内容を図1に示す。

Ⅲ. 結果・考察

1. 実態調査

Q2「服をどのくらい持っていますか」の質問に対する回答の集計結果を図2-1, 図2-2に示す。

服を「かなり持っている」は6名(12%), 「まあまあ持っている」19名(38%)と、全体の半数は服を多く所有していることが分かった。「普通くらい」17名(34%)であるが、これは個人の程度の感覚によっては差異が出てくる設問であったといえる。「数は少ない」8名(16%)は自分の衣服の数を把握できる数だけの所有とみることができる。

女性と男性を比較すると、「かなり持っている」「まあまあ持っている」の合計は、女性が63%であるのに対して、男性は20%だった。また、「かなり持っている」と回答した男性はいなかった。このことから、男性と比べて女性の服の所持数が圧倒的に多いことがわかる。

Q3「洋服を買うときに一番重視することは何ですか」の質問に対する回答の集計結果を図3-1, 図3-2に示す。

洋服を購入するときのポイントとして、「デザイン」を重視する人が22名(44%)と最も多く、衣服の購入では、何よりもデザイン性で購入することが分かった。次いで、「着回しやすさ」12名(24%), 「サイズ」10名(20%)であった。「価格」を重視するものは5名(10%)と少なく、ファストファッションとの関りはここではわからない。

女性と男性を比較すると、女性の過半数が「デザイン」と回答したのに対して、男性は「着まわしやすさ」「サイズ」と回答した人が多かった。この結果の要因として、単なる個人の嗜好だけではなく、服装のジェンダー意識や慣習、アパレル市場の戦略と商品の供給等、社会的な要因が関係していると考えられる。

洋服の保管と廃棄に関する意識調査アンケート

性別を選んでください (女性 ・ 男性)

年代を選んでください
 ・10代前半 ・10代後半 ・20代前半 ・20代後半 ・30代 ・40代 ・50代 ・60代 ・70代 ・80代以上 ・無回答

職業を選んでください
 学生 / 社会人 / 自営業 / アルバイト・パート / 主婦・主夫 / 無回答

Q1 以下の洋服の保管と廃棄に関する意識質問について、「そう思う」～「まったく思わない」の内、1つにチェックしてください

	そう 思う	やや そう 思う	ど ちら でも ない	あ ま り 思 わ な い	全 く 思 わ な い
新しい服を買ったらその分を廃棄する	5	4	3	2	1
流行遅れで着ないけど保管している服がある	5	4	3	2	1
買ったけど着ない服が結構ある	5	4	3	2	1
他人が着た古着を買う・着ることに抵抗はない	5	4	3	2	1
服は捨てるよりはフリマサイトに出す	5	4	3	2	1
汚れが目立たなければそのまま着る	5	4	3	2	1
裾がまつれたりボタンが取れても着る	5	4	3	2	1
価格の安い服はワンシーズンで捨てても惜しくない	5	4	3	2	1
「タンスの肥やし」という慣用語を知っている	5	4	3	2	1
環境問題に関心がある	5	4	3	2	1
毎日同じ服を着ても平気だ	5	4	3	2	1
昔の洋服も「いつか着る機会があるはずだ」と思ってしまう	5	4	3	2	1
気に入った服を見つけると、つい衝動買いをしてしまう	5	4	3	2	1
新しい衣服を買うとテンションがあがる	5	4	3	2	1
普段から衣服を大切に扱っている	5	4	3	2	1
洗濯表示を正しく理解している	5	4	3	2	1
衣服が収納しきれなくて困っている	5	4	3	2	1
裾のまつりや、ボタン付けくらいの衣服の修繕は自分でできる	5	4	3	2	1
着なくなった服をリメイクできたらいいと思う	5	4	3	2	1
外出着として使えなくなったものは部屋着として利用する	5	4	3	2	1
自分が着たものを他人が着るのはイヤだ	5	4	3	2	1
衣類の店舗回収などは積極的に活用したい	5	4	3	2	1
手間がかかるならゴミとして捨てる	5	4	3	2	1
知り合いに譲りたいが、迷惑に思われるかもと心配だ	5	4	3	2	1
兄弟姉妹のおさがりは抵抗がある	5	4	3	2	1

Q2 服をどのくらい持っていますか
 かなり持っている / まあまあ持っている / 普通くらい / 数は少ない / わからない

Q3 洋服を買うときに一番重視することは何ですか
 デザイン / 価格 / 着回しやすさ / サイズ / その他

Q4 あなたの性格はどれに近いですか
 大雑把 / 神経質 / 中間

図1 洋服の保管と廃棄に関する意識調査アンケート

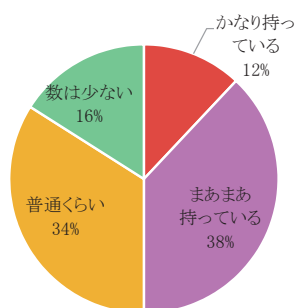
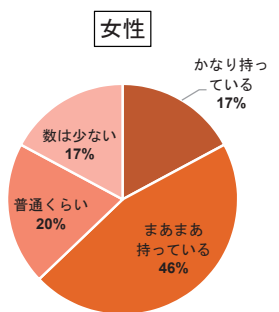
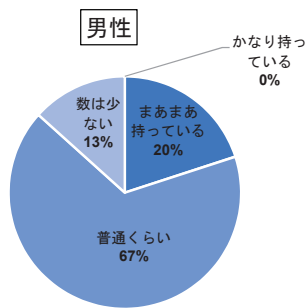


図2-1 「服をどのくらい持っていますか」(N=50)



N=35



N=15

図2-2 「服をどのくらい持っていますか」性別比較

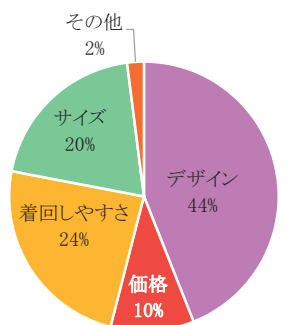
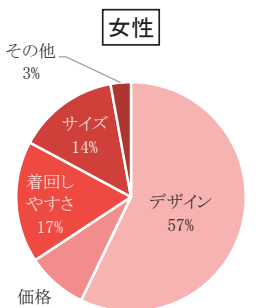
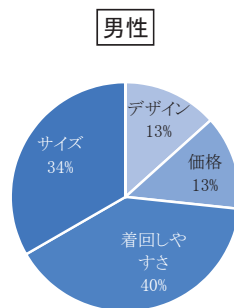


図3-1 「洋服を買うときに一番重視することは何ですか」(N=50)



N=35



N=15

図3-2 「洋服を買うときに一番重視することは何ですか」性別比較

「あなたの性格はどれに近いですか」の質問に対する回答の集計結果を図4に示す。

被験者が自己認識している性格は、悪く言えば「大雑把」、よく言えば「おおらか」な性格と答えた人が、25名(50%)と半数を占めた。大雑把ではない人(神経質+中間)も同じく50%で、その中で神経質な人は7名(14%)であった。所持している洋服の整理整頓や管理の習慣は、ある程度、その人の性格が影響していると思われる。

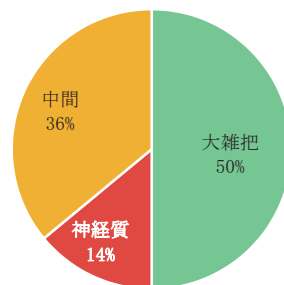


図4 「あなたの性格はどれに近いですか」(N=50)

2. 意識調査

(1) 官能評価プロフィール

1) 服の所持数による被験者カテゴリ比較

全被験者の各質問項目の平均値を算出し、図5～図7の官能評価プロフィールに示す。

実態調査Q2「服をどのくらい持っていますか」の回答が、「かなり持っている」「まあまあ持っている」「普通くらい」「数は少ない」の被験者（カテゴリ）に分けて集計した結果を図5に示す。各カテゴリの結果を記号と線種を変えて表示している。

この図より、「かなり持っている」と回答した人は、「流行遅れで着ないけど保管している服がある」「気に入った服を見つけると、つい衝動買いをしてしまう」「新しい衣服を買うとテンションがあがる」という項目の値が高く、衣服に高い興味を示していることがわかる。さらに、「服は捨てるよりもフリマサイトに出す」という項目は低く、自分の衣服を他人に譲る意識が低いことから、衣服に執着および愛着を持っているといえる。

反対に、所持している洋服の「数は少ない」と回答した人は、「流行遅れで着ないけど保管している服がある」「昔の洋服も「いつか着る機会があるはずだ」と思ってしまう」という項目の値が高く、洋服の所持数が多い被験者と同じ傾向を示している。一方で、「他人が着た古着を買う・着ることに抵抗はない」の値が低い。「数は少ない」被験者の場合、厳選された数少ない気に入った服を、長く着用し、着なくなった服も捨てずに保管しておこうとする傾向が強い。また、他人が着た古着を買ったり、着ることに抵抗をおぼえていることから、安価な古着を買うのではなく、高価でも自分に合った衣服を納得して購入する傾向と考える。

2) 洋服購入時に重視する条件による比較

実態調査Q3「洋服を買うときに一番重視することは何ですか」の回答が、「デザイン」「価格」「着回しやすさ」「サイズ」の被験者（カテゴリ）に分けて集計した結果を図6に示す。各カテゴリの結果を記号と線種を変えて表示している。

洋服を買うときに「価格」を重視する人は、「流行遅れで着ないけど保管している服がある」「外出着として使えなくなったものは部屋着として利用する」等の評価値が高い。また、「新しい服を買ったらその分を廃棄する」「服は捨てるよりフリマサイトに出す」「裾がほつれたりボタンが取れても着る」「価格の安い服はワンシーズンで捨てても惜しくない」が低い値を示しており、ある程度価格の高い洋服を購入し、その服を長く着る傾向があるが、価格に関係なく洋服に愛着を示している傾向がうかがえる。

「デザイン」を重視する人は、「汚れが目立たなければそのまま着る」「気に入った服を見つけると、つい衝動買いをしてしまう」「新しい衣服を買うとテンションがあがる」が高い値を示しており、おしゃれに敏感な傾向を持つことがわかる。また、他のカテゴリに比べ、「洗濯表示

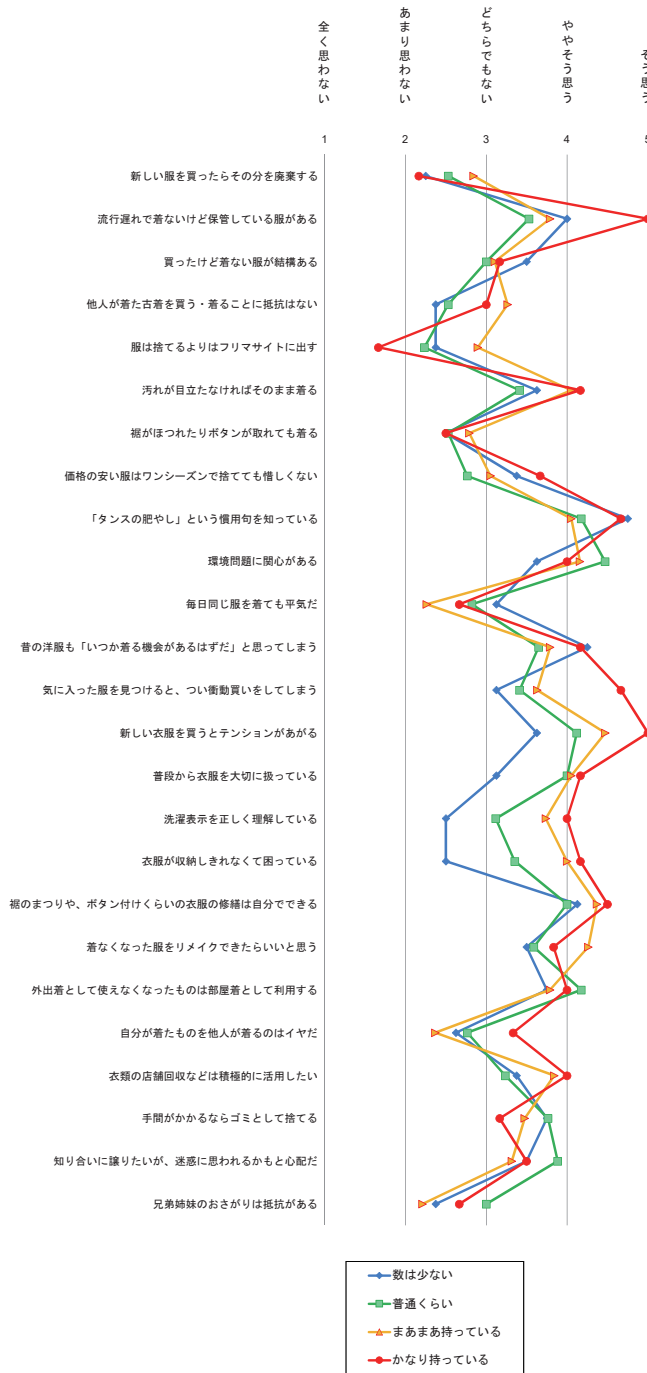


図5 官能評価プロフィール (服の所持数比較)

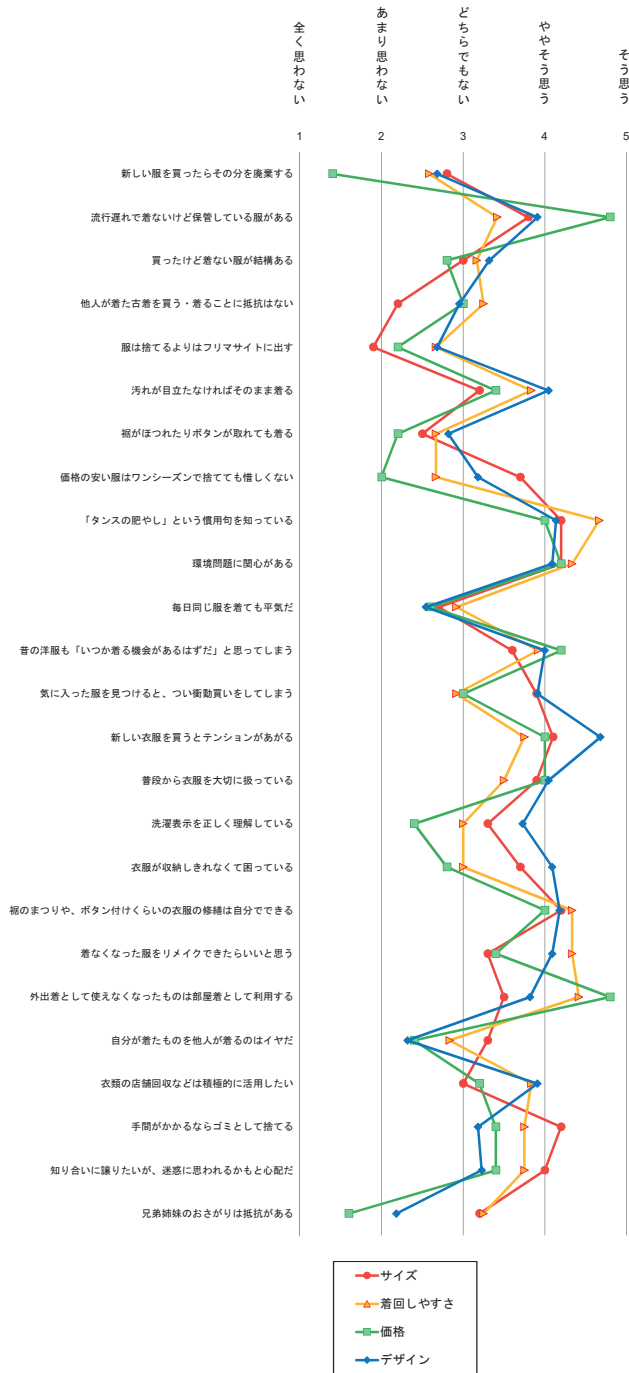


図6 官能評価プロフィール（服購入時に重視する条件による比較）

を正しく理解している」「衣服が収納しきれなくて困っている」「裾のまつりやボタン付けくらいの衣服の修繕は自分でできる」という値が高い。「デザイン」を重視する被験者は、多種多様なデザインの中から、気に入った洋服を見つけて購入できたことに気分が高揚し、それと同時に衣服を大切にしようとする意識が働くため、洗濯や修繕などの扱いが丁寧になる。また、着たいと思った服が目立たない汚れがついていた場合、「洗濯してから着よう」という気持ちよりも、その服を着たいという欲求が上回るため、「着てしまっても平気」という意識が働くことから、服に対する執着度が高いといえる。

「サイズ」を重視する人は、他のカテゴリーよりも「価格の安い服はワンシーズンで捨てても惜しくない」「手間がかかるならゴミとして捨てる」の値が高く、「他人が着た古着を買う・着ることに抵抗はない」「服は捨てるよりフリマサイトに出す」の値が低い。このことから、「サイズ」を重視する人が一番衣類の廃棄について抵抗を感じていないことがうかがえる。

「サイズ」を重視する人の所持している服は、いわゆる普通サイズではなく、大き目または細身・小柄のサイズを指すと考えられる。しかし、細身・小柄なサイズの市場は狭く、その中で自分好みの衣服と出会える確率は低いいため簡単に手放すとは考えにくい。このことから、この場合は大き目サイズであると考えるのが妥当と判断した。よって、大き目サイズを着る人の体形によるコンプレックスが、やむなく廃棄を選択しているのではないかという結果に至った。

3) 性格による比較

実態調査 Q4「あなたの性格はどれに近いですか」の回答が、「大雑把 (=おおらか)」「神経質 (=几帳面)」「どちらでもない (中間くらい)」の被験者に分けて集計した結果を図7に示す。各カテゴリーの結果を記号と線種を変えて表示している。

「大雑把」と「どちらでもない (中間くらい)」の被験者は似たような傾向を示している。差が認められるのは、「外出着として使えなくなったものは部屋着として利用する」の値が、「どちらでもない」の被験者の方が高く、「手間がかかるならゴミとして捨てる」が低いという結果である。「どちらでもない」のカテゴリーの人は、洋服の再利用や廃棄に関して、常識的な考えの人が多く見受けられる。

「神経質」と回答した人は、「価格の安い服はワンシーズンで捨てても惜しくない」が他よりも高く、「裾がほつれたりボタンが取れても着る」「自分が着たものを他人が着るのはイヤだ」の値が低い。「神経質」な人は、衣服の外観を気にする傾向が強いため、着用回数や服の保存状態等が一定の基準に達したら衣服を廃棄すると考えられ、他のカテゴリーに比べ、「衣服が収納しきれなくて困っている」という状況に至るまでに適正に衣服を管理していることが推察される。

(2) 単相関係数

服の保管と廃棄に関する意識調査に用いた25個の質問項目間における単相関係数を表2に示す。検定の結果、相関が有意であった組合せに、** ($p < 1\%$) または* ($p < 5\%$) を記している。

「新しい服を買ったらその分を廃棄する」と他の項目との相関に注目すると、「価格の安い服はワンシーズンで捨てても惜しくない」との間に有意な相関がみられた。洋服を購入した際に、手持ちの服を廃棄すると考えている被験者の場合、高価な洋服ではなく、手ごろな価格の服を購入する傾向が強いため、廃棄することに躊躇しないと解釈される。

「買ったけど着ない服が結構ある」と他の項目との相関に注目すると、「昔の洋服も「いつか着る機会があるはずだ」と思ってしまう」「衣服が収納しきれなくて困っている」等との間に有意な相関がみられた。無計画な衝動買いで洋服を購入する傾向がある被験者は、着用がない洋服をいつの日か着ようと思って保管するため、収納に限界が生じていると考える。

「環境問題に関心がある」と他の項目との相関に注目すると、「洗濯表示を正しく理解している」「着なくなった服をリメイクできたらいいと思う」「外出着として使えなくなったものは部屋着として利用する」「衣類の店舗回収などは積極的に活用したい」等との間に有意な相関がみられた。日常において環境やエコに関心が高い被験者は、洋服を大切に長く使用し、外出着として着なくなった服を部屋着にしたり店舗回収に出す等、有効利用を実践していることがわかる。

「衣服が収納しきれなくて困っている」と他の項目との相関に注目すると、「流行遅れで着ないけど保管している服がある」「買ったけど着ない服が結構ある」「昔の洋服も「いつか着る機会があるはずだ」と思ってしまう」「気に入った服を見つけると、つい衝動買いをしてしまう」等との間に有意な相関がみられた。洋服が収納しきれなくなっている被験者の場合、欲しい服を衝動的に購入してしまい、着なくなった服を廃棄する決断ができないことが、その要因であることがわかる。

(3) 因子分析

服の保管と廃棄に対する意識についての基本因子を抽出するために、25個の意識項目を変数に、被験者50名の各意識項目に対する評価を観測回数として因子分析を行った。バリマックス回転後の因子負荷量に注目し検討した結果、固有値1.0以上の5因子が抽出された。表3に得られた各因子の固有値と寄与率および、抽出した5因子の因子負荷量を示す。

因子負荷量の絶対値の大きい項目に注目し、各因子が示す意味を検討した結果、第1因子は「昔の洋服も「いつか着る機会があるはずだ」と思ってしまう」「買ったけど着ない服が結構あ

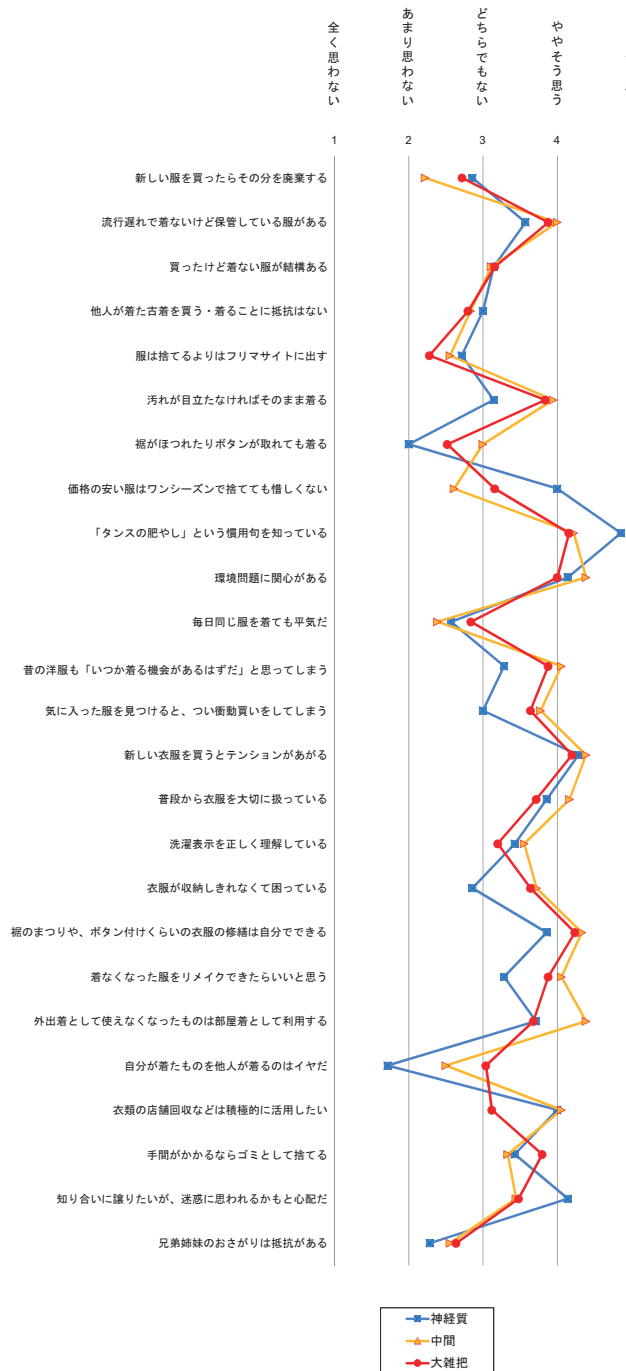


図7 官能評価プロフィール (性格による比較)

る」「外出着として使えなくなったものは部屋着として利用する」「着なくなった服をリメイクできたらいいと思う」等の質問項目が大きな因子負荷量の値を示していることから、“服を捨てられない（ズボラ・愛着）の因子”と解釈した。

第2因子は、「手間がかかるならゴミとして捨てる」「他人が着た古着を買う・着ることに抵抗はない（マイナス＝抵抗がある）」「服は捨てるよりフリマサイトに出す（マイナス＝出さない）」等の因子負荷量が大きいことから“廃棄志向因子”と解釈した。

第3因子は、「普段から衣服を大切に扱っている」「新しい衣服を買うとテンションがあがる」「気に入った服を見つけると、つい衝動買いをしてしまう」「汚れが目立たなければそのまま着る」等の質問項目が大きな因子負荷量の値を示していることから、“洋服好きの因子”と解釈した。

第4因子は、「新しい服を買ったらその分を廃棄する」「価格の安い服はワンシーズンで捨てても惜しくない」「環境問題に関心がある（マイナス＝関心はない）」等の因子負荷量が大きいことから、“ファストファッション志向の因子”と解釈した。

第5因子は、「「タンスの肥やし」という慣用語を知っている」「知り合いに譲りたいが、迷惑に思われるかもと心配だ」「環境問題に関心がある」「裾がほつれたりボタンが取れても着る（マイナス＝着ない）」等の因子負荷量が大きいことから、“環境や他人への気遣い因子”と解釈した。

よって、服の保管と廃棄に関する意識は、これらの5因子が基本となっているといえる。

(4) 因子得点の分布

1) 全被験者

次にこれらの4因子に対する各被験者の位置関係を検討するため、各被験者の各因子に対する因子得点を算出した。第1因子と第2因子をよこ軸とたて軸にとり、全被験者の因子得点を配置した分布図を図8に、同様に第3因子と第4因子に配置した分布図を図9に示す。

図8より、全体的に差があまり見られないが、第1因子がプラス、第2因子がマイナスの領域に若干集中が見られる。この領域に属する被験者は、購入した洋服をゴミとして捨てるよりも、フリマサイトに出したり、店舗回収などを積極的に利用し、ゴミに出す以外の処分の仕方をする。一方で、流行遅れで着ないが保管している服があったり、買ったけど着ない服が結構あるなど、購入に対して計画性がない。すなわち、収納しきれなくなって困っている人たちであるといえる。このことから、この領域に属する被験者は、洋服に愛着を持っていると解釈できる。

第1因子と第2因子がプラスの領域の被験者は、洋服が好きで購入するが、自分が着たもの

表3 因子分析（意識調査）

固有値表：回転後（バリマックス法）

因子No	固有値 (二乗和)	寄与率	累積 寄与率
第1因子	2.8397	11.36%	11.36%
第2因子	2.7375	10.95%	22.31%
第3因子	2.7309	10.92%	33.23%
第4因子	1.6256	6.50%	39.73%
第5因子	1.3400	5.36%	45.09%

因子負荷量：回転後（バリマックス法）

変数名	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子
	服を捨てられない (ズボラ・愛着) 因子	廃棄志向の因子	洋服好きの因子	ファストファッション志向の因子	環境や他人への気遣い因子
昔の洋服も「いつか着る機会があるはずだ」とってしまう	0.6684	-0.0432	0.0130	-0.0551	0.0098
買ったけど着ない服が結構ある	0.6407	0.0528	0.2010	0.3304	-0.0392
外出着として使えなくなったものは部屋着として利用する	0.5674	-0.2091	0.0058	-0.2790	-0.0567
着なくなった服をリメイクできたらいいと思う	0.5497	-0.3609	0.1297	-0.2020	0.1030
毎日同じ服を着ても平気だ	0.5127	0.0137	-0.2372	-0.1209	0.1387
汚れが目立たなければそのまま着る	0.4785	-0.1471	0.4722	-0.0048	-0.2273
兄弟姉妹のおさがりは抵抗がある	0.4675	0.3221	0.0419	-0.0746	-0.0561
裾がほつれたりボタンが取れても着る	0.4561	-0.0880	0.2634	-0.3065	-0.4202
流行遅れで着ないけど保管している服がある	0.3844	0.1241	0.0671	0.1230	0.2140
衣服が収納しきれなくて困っている	0.3439	0.1391	0.2858	0.0827	0.0928
手間がかかるならゴミとして捨てる	-0.0169	0.6729	-0.0972	0.1907	0.0893
自分が着たものを他人が着るのはイヤだ	0.2597	0.5634	0.0814	-0.1240	0.0809
裾のまつりや、ボタン付けくらいの衣服の修繕は自分でできる	0.0389	-0.3465	0.2553	0.1141	0.0584
衣類の店舗回収などは積極的に活用したい	0.1670	-0.5892	0.1816	-0.1292	0.3330
服は捨てるよりはフリマサイトに出す	0.0112	-0.6151	0.1238	0.1985	-0.2831
他人が着た古着を買う・着ることに抵抗はない	0.0524	-0.6663	-0.0227	-0.1719	0.0446
新しい衣服を買うとテンションがあがる	0.1413	-0.2930	0.7185	0.2266	0.0092
普段から衣服を大切に扱っている	-0.0169	-0.1174	0.7784	-0.1483	0.1984
気に入った服を見つけると、つい衝動買いをしてしまう	0.0855	0.1737	0.6206	0.0525	-0.0951
洗濯表示を正しく理解している	-0.0572	-0.3549	0.5729	0.0904	0.1799
新しい服を買ったらその分を廃棄する	-0.0987	-0.0851	-0.0142	0.6505	0.0586
価格の安い服はワンシーズンで捨てても惜しくない	-0.0112	0.1265	0.3177	0.6306	0.1292
「タンスの肥やし」という慣用語を知っている	-0.0153	-0.0640	0.1082	-0.0074	0.5201
知り合いに譲りたいが、迷惑に思われるかもと心配だ	0.1241	0.1370	-0.0280	0.1768	0.4901
環境問題に関心がある	0.1327	-0.1708	0.3972	-0.4146	0.4437

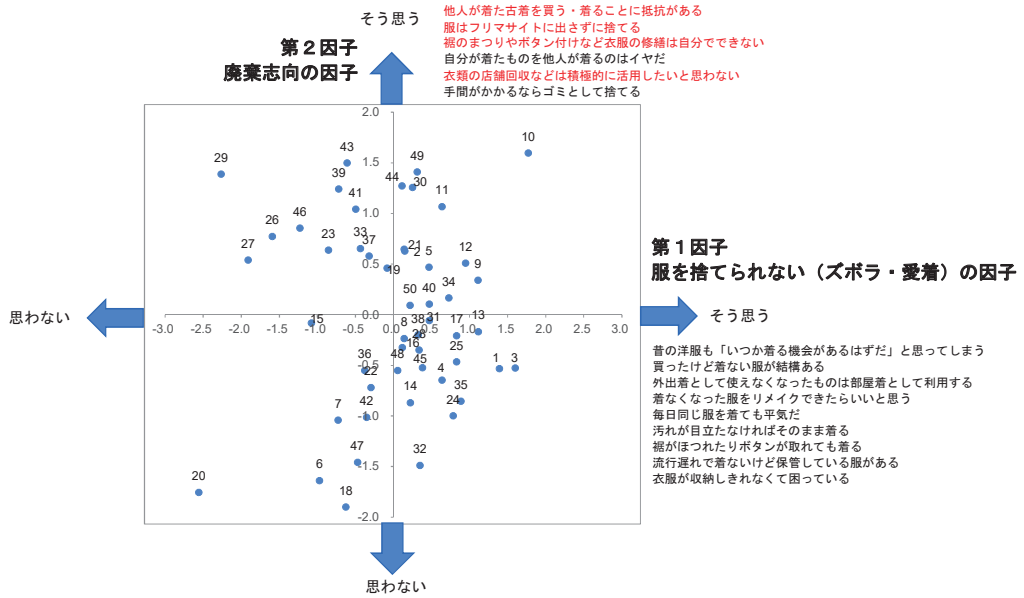


図8 因子得点の分布 (全被験者) 第1因子と第2因子
※赤字は因子負荷量がマイナス値の質問項目

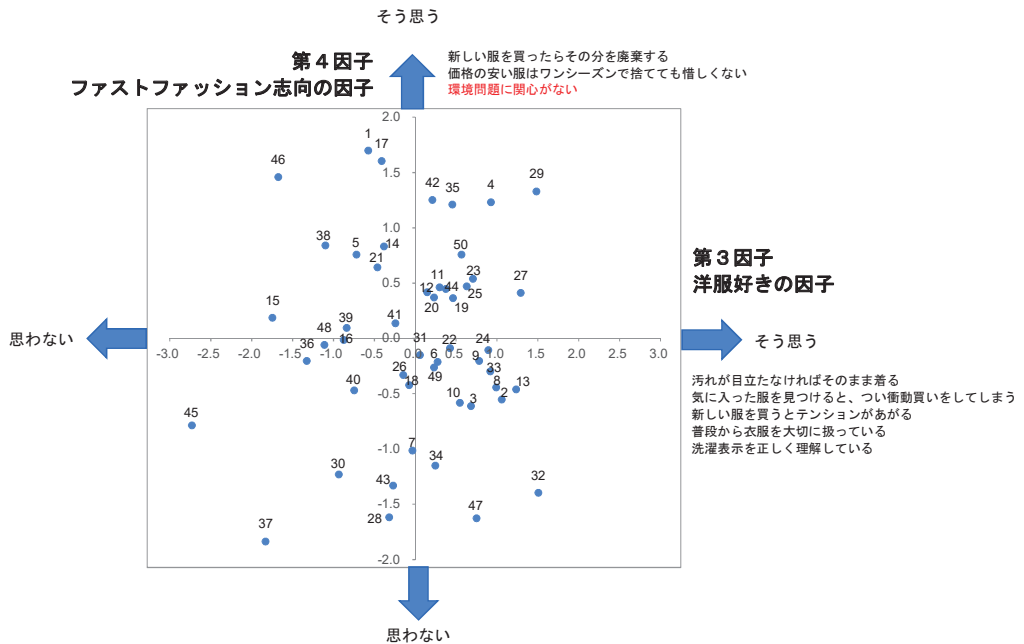


図9 因子得点の分布 (全被験者) 第3因子と第4因子

を他人が着たり、ましてや他人が着たものを自分が着ることを嫌う傾向がある。そのため衣服の廃棄に関しては、気に入ったものは簡単に捨てないが価値がないと判断したらゴミとして廃棄する方法を選択するといえる。

第1因子と第2因子がマイナスの領域の被験者は、計画的に洋服を購入し、服をため込むことがない。そして、廃棄にはゴミ処分以外の手段を選択していることから、常識的でエコ重視型の人であるといえる。特に被験者20番はその傾向がとて強く表れている。

第1因子がマイナスで第2因子がプラスの領域は、洋服に愛着を示さず、それを捨てることに抵抗がない、非エコ型の人たちであるといえる。古着を買うことや着ることに抵抗を感じるだけでなく、自分の着たものを他人が着ることに抵抗を感じているなど、潔癖的な一面が見られる。したがって、服の処分方法としては廃棄しか選択できないといえる。

次に図9より、全体的に中央に集中しているが、第3因子がプラスの洋服好きの因子に多く分布していることがわかる。第3因子と第4因子がプラスの領域の被験者は、洋服好きではあるが、同時にファストファッション志向が強く、価格帯の安い服を購入する傾向がある。したがって、新しい服を買うと、着古した流行遅れの服の価値が下がり、捨てることへの抵抗が失われると推察する。

第3因子がプラスで第4因子がマイナスの領域の被験者は、洋服が好きで、ある程度の価格帯の洋服を購入し、それを大切に着用、手入れをしているところから、真の洋服好きであると判断できる。

反対に第3因子がマイナスで、第4因子がプラスの領域の被験者は、洋服に関心があまりなく、ワンシーズンで着まわしている。このような被服行動をとる被験者は、家庭の衣服を容易にゴミとして出してしまう習慣があると推察できる。

第3因子と第4因子がマイナスの領域の被験者は、洋服好きではないが、良いものを長く着用する人たちである。また、ファッションにおいても冒険をせず、定番のファッションを好む傾向が認められる。

2) 性別比較

次に、性別による因子得点を比較するため、女性と男性の因子得点の平均値を算出し、第1因子と第2因子に配置した分布図を図10に、第3因子と第4因子に配置した分布図を図11に示す。

図10より、女性被験者の大多数が、第1因子がプラスの領域に分布しており、購入したまま着用せず保管している服があるという人が多い。このことから、流行が過ぎたり、体型の変化により着られなくなった服でも、捨てることができないという洋服に対する執着心は、女性特有の現象であるといえる。

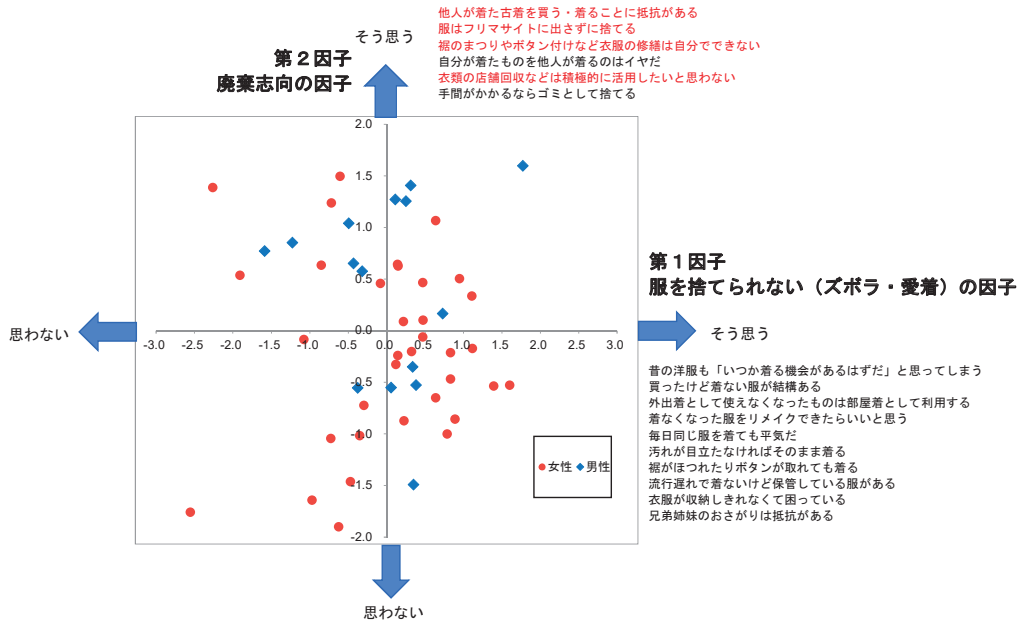


図10 因子得点の分布 (性別比較) 第1因子と第2因子

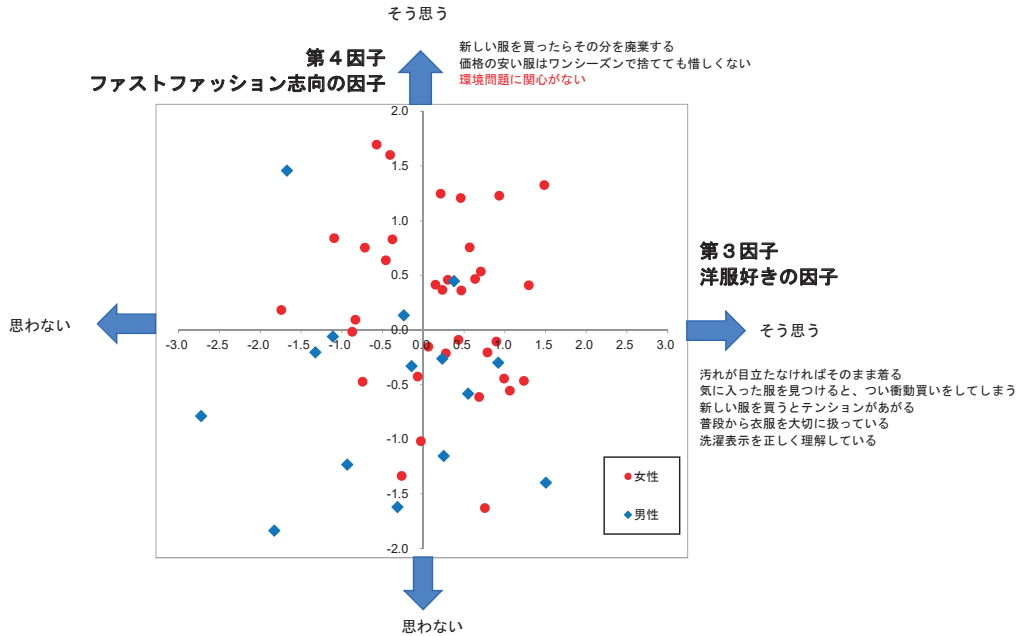


図11 因子得点の分布 (性別比較) 第3因子と第4因子

男性は、第2因子「廃棄志向の因子」がプラスの領域に多く分布しており、着なくなった服をフリマサイトに出したり、他人に譲ったりせず、ゴミとして廃棄する人が多いといえる。反対に、女性の場合は、第2因子がマイナス側に多く分布しており、服をゴミとして廃棄するよりは、他人に譲ったり、店舗回収を利用することで、衣服を有効活用したいという洋服に対しての愛着がみられる。

図11より、第4因子「ファストファッション志向の因子」において、女性と男性とでは対照的な傾向を示した。女性の場合、第4因子がプラス側に多く分布しており、新しい服を買った際は古い服を廃棄したり、価格の安い服はワンシーズンで廃棄してもよいと考えている。また、環境問題にそれほど関心を持っていない。反対に、男性被験者は第4因子がマイナス側に多く分布しており、環境問題に関心があり、服を廃棄しない傾向が強い。女性の洋服はデザインも多様で、流行もめまぐるしく変わり、シーズンごとに新しい洋服を購入することが多い。また、近年のファストファッション志向の高まりにより、手ごろな価格でデザイン性の高い服を購入する機会が増えたと考えられる。したがって、洋服を廃棄することに抵抗がなく、また新しい洋服を購入するというサイクルを繰り返していると推察される。男性の場合は、女性ほど服の流行やバリエーションに気を遣う必要がなく、上質な高価格のアイテムを長く着用するという着装行動がみられる。

3) 服の所持数による比較

次に、実態調査「服をどのくらい持っていますか」の回答が、「かなり持っている」「まあまあ持っている」「普通くらい」「数は少ない」の被験者（カテゴリー）に分けて因子得点を算出し、図12と図13の因子得点の分布図に示す。

図12は第1因子と第2因子に配置した分布図である。この図より、「かなり持っている」被験者と「まあまあ持っている」被験者は、第1因子がプラス側に多く分布しており、収納しきれない数の洋服を所有していて、着なくなった洋服をいつか着ようと思って保管する傾向が強い。反対に、「持っている洋服が少ない被験者」も、その大部分が第1因子がプラス側に分布していることが興味深い。この要因に関しては後述する。

第2因子に関しては、「かなり持っている」被験者は、マイナス側に多く分布しており、服をゴミとして廃棄するよりは、他人に譲ったり、店舗回収システムを利用したいと考えており、洋服に対する愛着を示しているといえる。

図13の結果と合わせて考えてみると、「かなり持っている」被験者は、第3因子「洋服好きの因子」がプラス側に多く分布しているのに対して、「数は少ない」被験者は第3因子がマイナス側に多く分布している。このことから、服をたくさん持っている人は、洋服が好きで、つい衝動買いをしてしまうが、服を大切に扱っていることがわかる。逆に服が少ない人は、洋服に興

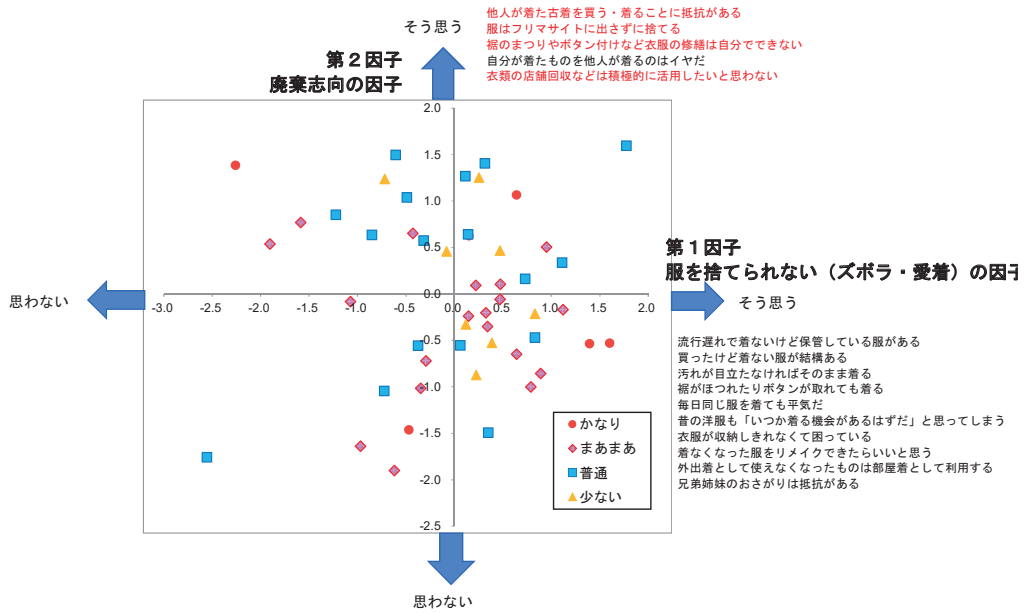


図12 因子得点の分布 (服の所持数比較) 第1因子と第2因子

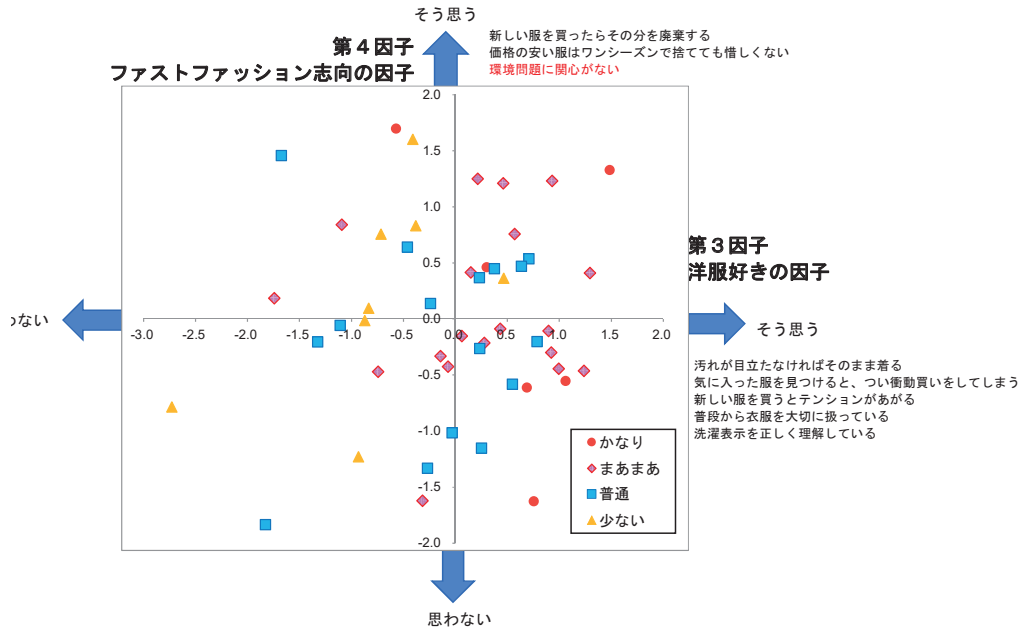


図13 因子得点の分布 (服の所持数比較) 第3因子と第4因子

味がなく、服を大切に扱おうという意識が低い。また、第4因子を見ると、「数は少ない」被験者のほとんどがプラス側に分布していることから、低価格な洋服を買う傾向がみられる。

前述の図12の結果と合わせて考察すると、「数は少ない」被験者は、第1因子がプラスに多く分布していた。この要因は、この人たちは洋服に関心がなく、安い価格の服を購入し、服が汚れたりほつれたりしても気にせず着用するといった、洋服に対して無頓着な着装行動をとることだと考える。それゆえ、不用となった服を捨てることに対しても抵抗を感じる事が少ないといえる。同様に第1因子がプラスに多く分布している、服に愛情を持ち、それ故に捨てられずに保管し続けてしまう、「かなり持っている」被験者とは、対照的な意識を持っていることがわかる。

4) 洋服購入時に重視する条件による比較

次に、実態調査「洋服を買うときに一番重視することは何ですか」の回答が、「デザイン」「価格」「着回しやすさ」「サイズ」の被験者（カテゴリー）に分けて因子得点を算出し、図14と図15の因子得点の分布図に示す。

図14は第1因子と第2因子に配置した分布図である。この図より、「デザイン」を選択した被験者は全体に分布しており、どの領域の人も「デザイン」を重視する人がいることがわかる。第1因子に関しては、プラスの領域に多く分布していることから、「デザイン」を重視する人は、着なくなった服を捨てられずに保管し続ける傾向が強いといえる。

また、第1因子プラス、第2因子マイナスの領域は、「着回しやすさ」を選んだ被験者が多い。この領域の被験者は、洋服を捨てずに保管し続ける傾向があり、処分する場合はゴミとして破棄するよりも、他人に譲ったり、店舗回収などの手段を考えている。「着回しやすさ」を重視する人の服は、「着回し」を念頭に服を選ぶので流行に左右されない、どんな服にも合わせやすいベーシックなアイテムが多いと思われる。その結果、同じようなデザインの服を購入してしまい、ズボラな要因もあって収納しきれない状況に陥るのではないかと考える。

「サイズ」を選択した被験者は、第2因子がプラスの領域に多い。「サイズ」を重視する人は、標準的な体型ではないというのが主な原因であろう。前述の、「2. 意識調査 (1) 官能プロフィールの2) 洋服購入時に重視する条件による比較における結果」と同じ傾向を示している。

図15は第3因子と第4因子に配置した分布図である。「デザイン」を選択した人は第3因子がプラスの領域に多い。デザイン重視の被験者は、洋服が好きだけに、衝動買いをしてしまう。また、ショッピングによってテンションが上がり、そのまま愛着となって、服を大切に扱う行動へと移行する。

「価格」を重視する被験者は、第3因子がすべてマイナスであるが、第4因子がプラスとマイナスに二分された。プラスの領域は「ファストファッション志向」で、価格帯の安い服をワン

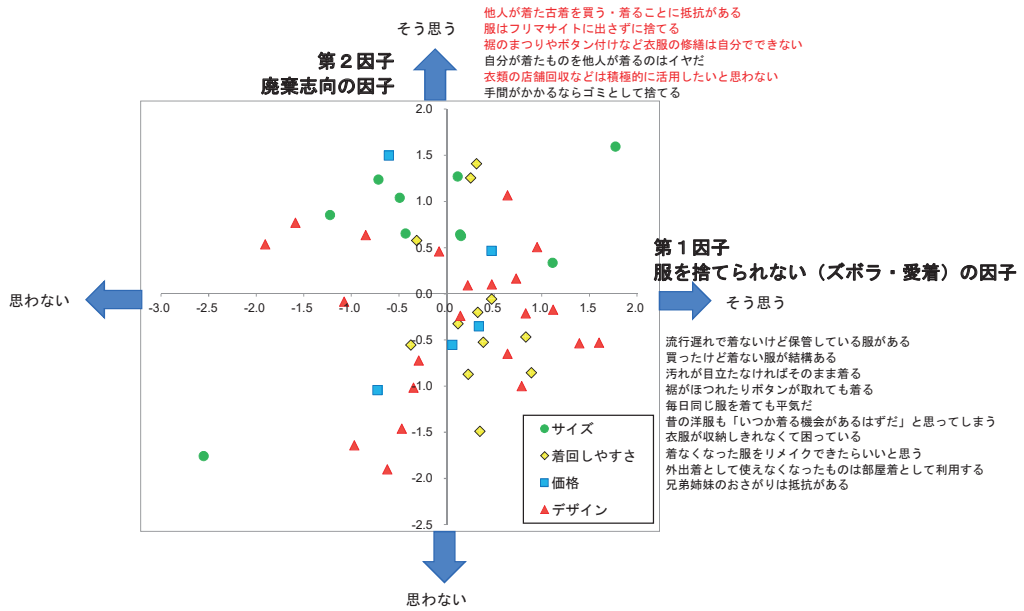


図14 因子得点の分布 (洋服購入時に重視する条件による比較) 第1因子と第2因子

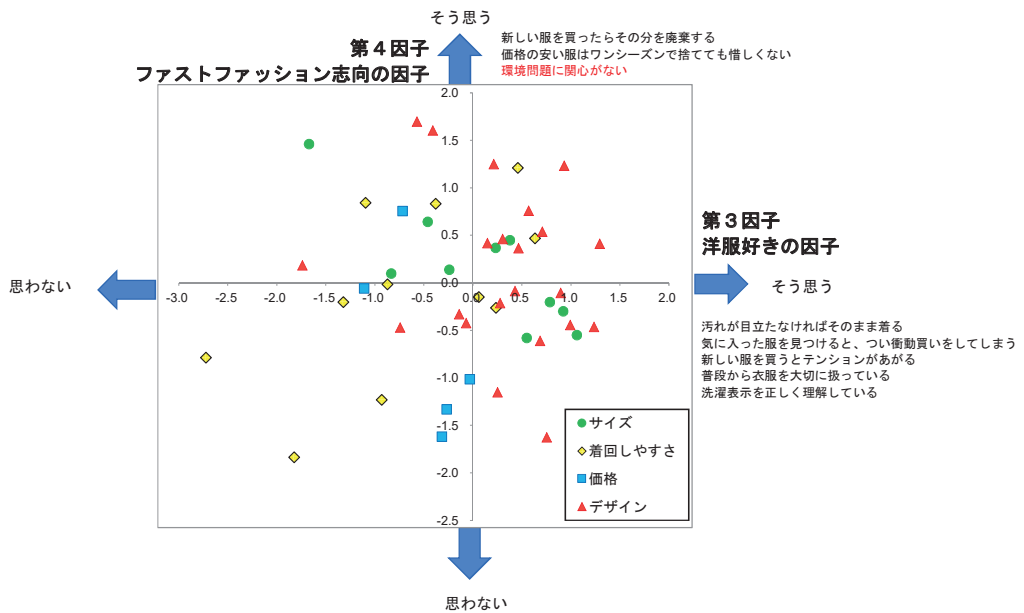


図15 因子得点の分布 (洋服購入時に重視する条件による比較) 第3因子と第4因子

シーズンで廃棄する被服行動をとり、マイナス領域は、良いものを長く着るタイプといえる。

「着回しやすさ」および「価格」を選択した人は、第3因子がマイナス側に多く分布している。これらの被験者は、洋服を買うことに特に喜びを感じておらず、衝動買いをすることもない。流行に左右されない定番アイテムや、上質な洋服を、悩むことなく日々着用できれば良いと考えているのではないだろうか。

IV. ま と め

男女50人の被験者を対象に、服の保管と廃棄に関する意識調査アンケート調査を行い、因子分析により考察を行った結果、以下のことが明らかになった。

1. 官能評価プロフィールの結果より以下のことがわかった。
 - ・被験者のカテゴリー別に比較した結果、服をたくさん持っている人は衣服に関心が高く、自分の洋服を他人に譲る意識が低いことから、衣服に執着と愛着を持っている。逆に所持している服が「少ない」人は洋服に関心がないものの気に入ったものを長く着る傾向がみられる。
 - ・洋服購入時に重視する条件でカテゴリーを比較をすると、「価格」を重視する人は、容易に廃棄せず保管している服が多い傾向から、ある程度価格が高い洋服を購入していると考えられる。「デザイン」を重視する人は、おしゃれに敏感で、服の扱いは丁寧だが、服を着たいという欲求が上回るため、多少の汚れは気にしない傾向がある。「サイズ」を重視する人は、持っている服が一般的なサイズではないため、他人に譲るという意識が低く、廃棄を選択する傾向が強い。
 - ・性格が「おおらか（大雑把）」な人は洋服の廃棄やリサイクルには無頓着であり、「神経質な人」は客観的な判断力を持つということがわかった。
2. 服の保管と廃棄に対する意識アンケートについての因子分析を行った結果、「服を捨てられない（ズボラ・愛着）の因子」「廃棄志向の因子」「洋服好きの因子」「ファストファッション志向の因子」「環境や他人への気遣い因子」の5因子が抽出された。
3. 因子得点の分布により、被験者のカテゴリー比較を行った結果、以下のことが分かった。
 - ・性別による比較では、女性被験者の方が服に対する執着心が見られたが、女性は男性に比べて、価格の安い服をワンシーズンで廃棄するという意識が強い。
 - ・服の所持数による比較を行った結果、「服を多く持っている」被験者は着なくなった服を保管し続ける傾向にあるが、一方で、服をゴミとして廃棄せず、他人に譲ったり、店舗回収システムを利用したいと考えており、服に対する愛着が感じられる。服が「少ない」被験

者は、洋服に関心がなく、洋服に対して無頓着な着装行動が見られた。

- ・洋服購入時に重視する条件による比較を行った結果、「デザイン」を重視する人は洋服が好きという意識が強いが、「着回しやすさ」を重視する人は、「デザイン」を重視する人より第3因子（洋服好きの因子）がマイナスに分布しており、コーディネートしやすいベーシックなものを好み、洋服への関心が低いといえる。

今回の調査により、日常の服の廃棄の傾向と、保管や廃棄の方法が異なることの心理的要因が明らかになった。今後は、人々の環境問題への関心と意識、衣服の廃棄に関する諸問題について調査を行い、衣服のよりよい消費と廃棄の方法を追究していきたいと考える。

最後に、アンケートにご協力いただいた皆様へお礼を申し上げます。

注

注1 ファストファッション³⁾

流行のデザインを取り入れた衣料品を迅速に大量生産し、短期間に売り切ってしまうファッション・ブランド、あるいはそのビジネスモデル。定番商品をもたず、最新トレンドを反映した新商品を1週間から2週間単位で次々と店頭へ並べ、1か月足らずでほぼ入れ替えてしまう。Tシャツ1枚数百円、ワンピース1着数千円などと価格が安い点に特徴がある。安くて早い「ファーストフード」になぞらえてこうよばれる。流行に敏感で同じ服を単一シーズンしか着用しないという消費者層に支持され、世界的に売上げを伸ばしている。

注2 MUJIとユニクロを含む世界の衣料大手が、強制労働のウイグル人が生産した綿を調達している疑惑が浮上した⁴⁾。

注3 コットン貿易の影にもまた先進国に有利な不平等な構造があり、開発途上国の多くのコットン生産者は、生産コストすらまかなえない低価格の厳しい状況を強いられている。

フェアトレードとは直訳すると「公平・公正な貿易」。つまり、開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「貿易のしくみ」をいう⁵⁾。

注4 循環型社会⁶⁾

大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会に代わるものとして提示された概念。循環型社会形成推進基本法（平成12年法律第110号）では、まず製品等が廃棄物等となることを抑制し、次に排出された廃棄物等についてはできるだけ資源として適正に利用し、最後にどうしても利用できないものは適正に処分することが確保されることにより実現される、「天然資源の消費が抑制され、環境への負荷ができる限り低減された社会」としている。

文 献

- 1) SDGs JOURNAL 「ファッション業界の環境への影響」
<https://sdgs-support.or.jp/journal/fashion-kankyo/>

- (2020年12月1日閲覧)
- 2) 岩地加世 (2010), 「“衣” との付き合い方 ―これでいいの? 衣類のリサイクル―」, 廃棄物資源循環学会誌, Vol. 21, No. 3, 132-139
 - 3) 『日本大百科全書 (ニッポニカ)』, 小学館
<https://kotobank.jp/word/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%83%BC%E3%82%B9%E3%83%88%E3%83%95%E3%82%A1%E3%83%83%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%B3-614976>
(2020年9月30日閲覧)
 - 4) 「ウイグル弾圧で生産された「新疆綿」を日の丸アパレルが使用?」, ニューズウィーク日本版, 2019年11月26日
<https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2019/11/post-13477.php>
(2020年9月30日閲覧)
 - 5) 「フェアトレードとは?」, FAIRTRADE JAPAN
https://www.fairtrade-jp.org/about_fairtrade/
(2020年10月7日閲覧)
 - 6) 「循環型社会への新たな挑戦」, 環境省, 平成20年9月
<https://www.env.go.jp/recycle/circul/keikaku/pamph.pdf>
(2020年9月30日閲覧)